

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月23日

【評価実施概要】

事業所番号	第4694300015号		
法人名	株式会社 スローライフ		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	鹿児島県 南九州市 川辺町 高田 1238-4 (電話) 0993-58-3838		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年5月22日	評価確定日	平成21年6月6日

【情報提供票より】 (平成21年5月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 5月 7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人	非常勤 2人 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	10,500 円
敷金	有 (円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (5月 7日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	79歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南薩ケアほすびたる・かわじ歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川や田畑などに囲まれ、鳥のさえずりや虫・魚などを居ながらに楽しめる場所にホームはある。職員は協力して、「スローライフ」の暮らしを支え、入居者はその人らしく穏やかに過ごしている。入居者は畑で作った野菜や地域住民が差し入れた野菜等を利用し、スタッフと一緒に調理し、食事を楽しんでいる。リハビリやレクリエーションなど取り入れ、適切なケアを提供することに努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	初めての評価であり記入はない。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	研修会で職員に評価の意義や活用法について説明し、評価項目を全員で読み合わせをして、具体的な改善点について話し合い、サービスの質向上に活かすように取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催し、事業所の現状や利用者の様子など報告している。災害訓練について話し合い、地域住民の協力が得られることになるなど、運営推進会議での意見が運営に反映できている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口について明記し、運営推進会議に家族が交替で参加して意見を話す機会を設けている。意見や苦情はミーティングで話し合い、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時の見学会に多くの地域住民が来所している。自治会に加入し、散歩時の挨拶や地域の高齢者と花見やお茶を飲むなど交流している。地域住民に1周年の時、手作りのお菓子を配り、コミュニケーションが図られた。野菜の差し入れなどがあり、積極的に交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	第4694300015号	開設時にグループホームの役割を考えて理念を作ったが、1年間運営して、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を職員と話し合い、見直す取り組みをしている。	○	理念を見直し、地域密着型の理念を作り上げることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や台所の見やすい所に掲示し、朝の引継ぎ時に唱和し、確認している。理念を目標にして、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、散歩時の挨拶や地域の高齢者と花見やお茶を飲むなど交流している。1周年のとき、地域住民に手作りのお菓子を配り喜ばれた。野菜の差し入れなどもあり、積極的に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	研修会で職員に評価の意義や活用法について説明し、評価項目を全員で読み合わせをして、具体的な改善点について話し合った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、事業所の現状や利用者の状況など報告している。災害訓練について話し合い、地域住民の協力が得られることになるなど、運営推進会議での意見が運営に反映できている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームや利用者の課題について、日頃より市担当者に相談や意見を聞いており、サービスの質向上に活かすなど、協力関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書発送時に、利用者の様子や暮らしぶりを個別に「生活の様子」として文書で写真も添えて送付している。健康状態は電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、運営推進会議に家族が交代で参加して、意見を話す機会を設けている。意見や苦情はミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の適性など考慮し、勤務体制などを工夫し、離職を最小限に抑えるよう努め、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識し、外部研修や資格取得など、職員の段階に応じた研修を支援している。ホーム内で定例会後に勉強会を行い、職員を育てる取り組みを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交流会に参加している。交代で意見交換会や研修・相互訪問の実施などを通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には見学を勧め、徐々に雰囲気に馴染めるよう工夫している。入居後は自宅訪問や家族の宿泊などを支援し、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬や感謝の気持ちで接しており、昔の風習や料理・おやつ・保存食作りなど、教えてもらいながら、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が、生活の様子を記録して、日頃の会話や日常の様子から、思いや意向を汲み取るよう努め、利用者の思いを把握するなど工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時は家族にも参加してもらい、主治医の意見を参考に、利用者・職員など、多くの関係者で担当者会議を開催し、意見やアイデアを出し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて評価を実施し、計画の見直しを行っている。退院時など、主治医を交えた関係者とカンファレンスを実施して、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携による24時間の健康管理体制や病院受診・通院介助・自宅訪問・墓参り・買い物支援などしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する主治医の受診を支援している。協力病院が24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の看取りに関する指針と同意書を作成し、入居時に説明している。開設間もないため対象者はいないが、本人や家族の意向を尊重し、方針を関係者で話し合い共有する事を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、採用時に誓約書を交わし、徹底している。言葉使いや対応など、気づいた時に注意し、一人ひとりの誇りや尊厳を大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めているが、利用者の体調などに配慮しながら、起床や就寝・食事時間など入居者のペースを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園や差し入れの野菜を利用しながら、下ごしらえや配膳・片付けなど一緒に行い、食事を楽しめるよう支援している。希望があれば外食も支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に曜日を決めているが、希望や状況によってはいつでも入浴できる。時間も入居者の希望を取り入れている。温泉に行く事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームで雑巾を手作りし、小学校に寄贈している。洗濯物干しやたたみ・調理・園芸・草取りなど力を活かした役割がある。花見やドライブなどのほか、個別支援として小旅行など、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買い物に行き、ウッドデッキでお茶を飲んだりして過ごしている。公園にドライブをかねて出かけるなど外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、心くばりをしながら、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練や避難訓練を実施している。地域の協力者も依頼し、災害に備えている。		災害に備えて、水や食料品などの物品を準備することが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほとんどの入居者が毎食全量摂取であり、食べる量や水分摂取量は一人ひとりに応じた支援ができています。献立は栄養士のアドバイスを参考にしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子・ソファが家庭的な雰囲気配置され、リビングの花の絵や季節の花が飾られ居心地良く過ごせる工夫がある。ウッドデッキからは川が眺められ、蛍や魚など見ることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者愛用の毛布や椅子・時計などを持ち込み、家族の写真やぬいぐるみなどを飾り、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。